

コロナを越えて シノドスへ

地区養成代表者会議



10月1日(土)、サクラファミリアで地区養成代表者会議が行われた。使徒職養成委員会から7人、8つの地区からは合計12人が集い、教区における使徒職の養成について話し合った。

会議の前半は「コロナ禍における教会活動(信仰養成など)の難しさや気づき」を議題に、地区を基に3グループに分かれ、参加者でわかった。

「参集できない寂しさや苦しみが大きかった」「公開ミサに関する告知や理解に困難があった。その中で、繋がりがや連絡の工夫、現状の見直しなどもなされた」「自らミサ動画を視聴するようになった信徒や配信を始めた司祭がいた」「教会に行けない中で、祈りの場を考える機会を得た」「主日の過ごし方が変化した。生活がだらけてしまったり一方で、時間的余裕ができた家庭への意識が高まった」「コロナ禍で教会離れが生じ、

日本人青年が減る一方で、ベトナムなどの外国人青年が増えた」などの気づきがあった。

会議の後半は「シノドスの歩みの中の信仰養成」(カテキズムの視点から)という議題で、酒井俊弘補佐司教による講話があった。

酒井司教はシノドス(世界代表司教会議)に向けた準備の作業が今後、国レベルから大陸レベルへと展開していくことを説明され、大阪ではすでに「新生計画」という形で先取りの歩みがあったことを語られた。

また、コロナ禍にありながらも、教会(ミサ)に人びとが戻りつつある現状や世代の推移を見据えた「使徒職の養成」と「新しい信



地区からの養成代表者の集まりは3年ぶりとなった。

徒の発掘」を考えていく必要性について話された。この講話を受けて、グループでのわかれあいが持たれ、その後の全体会は質疑応答の場とされた。

枚岡教会 60周年を迎えて 新しく生まれ変わるために



10月25日に献堂60周年を迎えた枚岡教会。記念日に先立ち、23日(日)の9時、酒井俊弘補佐司教を迎えて記念ミサをささげた。

ミサには枚岡教会の信徒をはじめ、同かわちブロックの布施と八尾教会の代表信徒の方、当日出張販売に来た師イエズス修道女会のシスターたちも合わせて、100人ほど参加した。

主司式の酒井俊弘司教はミサの説教で次のように話された。「60年」という歩み——人間でいえば「還暦」を迎える枚岡教会。新しく生まれ変わるよう呼びかけられている。過去を振り返るだけでなく、未来への希望をもって歩んでゆく大切さを話された。

枚岡教会の信徒が書かれた「枚岡教会60周年への想い」が奉納され、共同祈願を日本語、ベトナム語で共に祈りをささげた。この日はちょうど「世界宣教の

日」ということもあり、枚岡教会の門出として、改めて良い出発ができたと思う。

教会の60年の歴史を皆で分かち合えるように、信徒からこれまでの写真を募集し、聖堂に飾った。その時々撮影された思い出の写真を見ながら、懐かしい歩みを振り返る方も多くいた。

本年、枚岡教会では「キリスト者になろう」という目標を掲げており、一人ひとりがキリストを宣べ伝える者として、先人たちに倣い、日本とベトナムの方、年配者と子どもたちが手を取り合って、希望を語れるようにしていきたいと願っている。

(文 カトリック枚岡教会)

いずみブロック・垂水教会堅信式

偶然ではない スタートを切る

秋には、いずみブロックと垂水教会の2つの堅信式があった。合計20人の受堅者への豊かな祝福と主の導きを願いたい。



いずみブロック

いずみブロック

10月3日(日)、11時から和泉教会でいずみブロックの堅信式が行われた。主司式は酒井俊弘補佐司教。共同司式は村田稔神父、ロムアルドウス・ジュアン神父、ピエル・ジョルジョ・マンニ神父、グティエレス・ヘルナンデス・イルビン・アロンソ神父。受堅者は13人。コロナ禍で家族と友人に参加制限はしていたが、80人ほど参加することができた。歌は歌えなかったが、お祝いする気持ちで式は厳かに進められた。

堅者たちも喜んでいました。今回、受堅者も日本人だけでなく、外国人の受堅者も一緒に与ることができ、リーダーの方々の思いもあり、お祈りや共同祈願など、それぞれの国の言語で行えた事が大変喜ばしいと感じました。

拝領祈願の後のお祝いのセレモニーでは、受堅者の代表が教会の皆への感謝の言葉を述べた。「わたしたちが堅信を受けるために目に見える援助をしてくださった方々、そして目に見えない援助をしてくださった方々」と呼びかけた。式後、多くの信徒が「本当に家庭的な温かさに満ちた堅信式でした」という感想を述べていた。

垂水教会

「堅信の秘跡はゴールではなく、大人の信者としてのスタート。自分の力にだけ頼らず、謙遜な心で神様に頼っていきましよう」とミサ説教で酒井司教は述べた。

10月30日(日)10時、垂水教会で6人の中学生、1人の高校生の堅信式が酒井俊弘補佐司教の司式によって行われた。共同司式は同教会の担当司祭である林和則神父。第一・第二朗読、答唱詩編、共同祈願は受堅者自らが担当した。コロナ禍のため、密を避けるために小教区内8地区のうち4地区の信徒が参加した。

受堅者の記念品には『カトリック教会のカテキズム要約(コンペンディウム)』を贈った。酒井司教からのサインと言葉をもらい、受

10月30日(日)10時、垂水教会は2018年10月実施の前回の堅信式までは、明石・北須磨・洲本とともにブロック合同で行ってきたが、コロナ禍に入っ



垂水教会